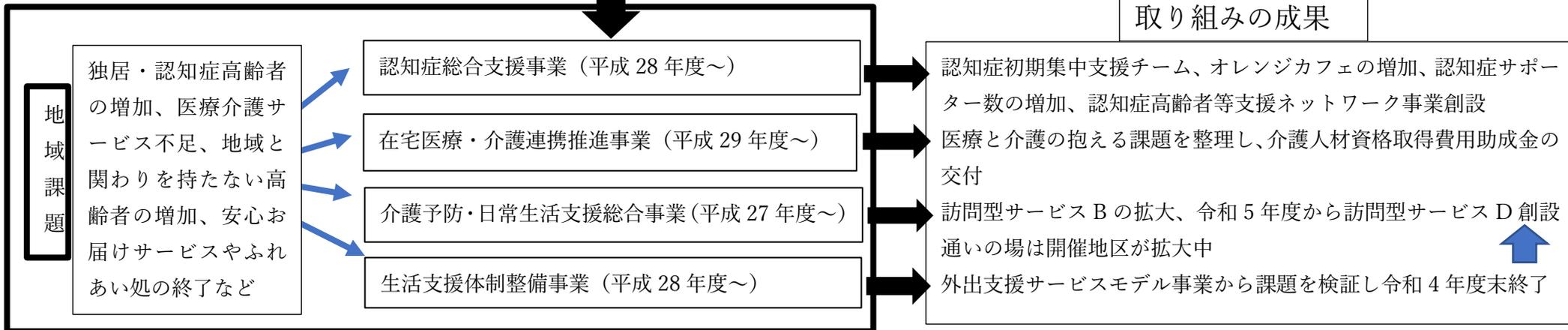


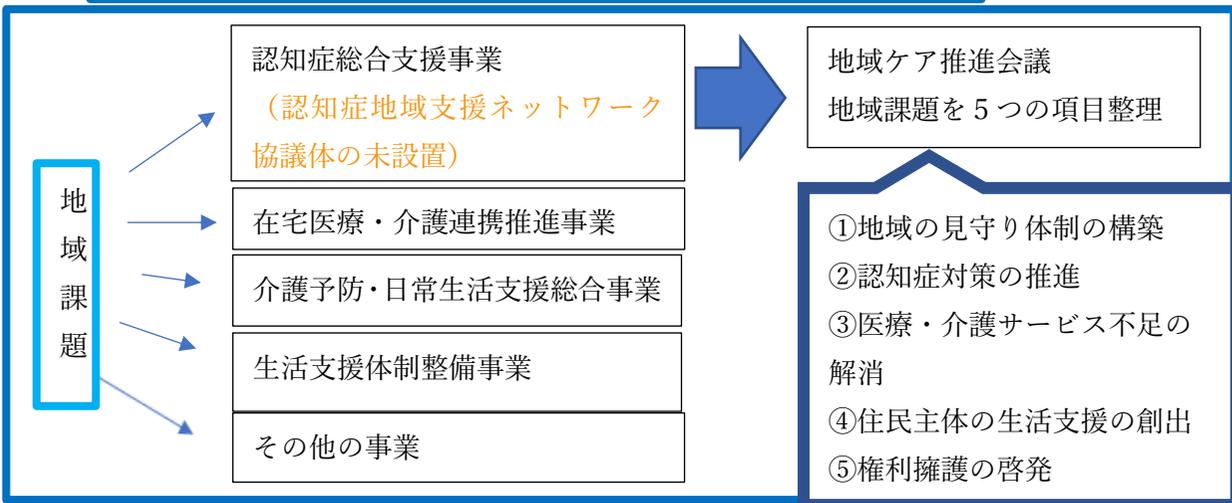
【優先順位を考える (過去を振り返り、未来に向けて)】

【過去】

平成 27 年度より介護保険法の大きな改正があり包括ケアシステムを構築するための事業を細分化する必要があった。
課題解決のため事業の検討・実施。



【現在】地域ケア推進会議で検討



【未来】

②の課題は認知症総合支援事業

③の課題は在宅医療・介護連携推進事業

④の課題は生活支援体制整備事業

※②～④は引き続き事業実施の中で課題解決を図っていく。

※①と⑤の課題の取り組みが必要

身体機能	自立	フレイル予備軍	寝たきり
認知機能	自立	MCI～初期	中度～重度



予防（生涯健康でいること）と権利擁護（自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために）をキーワードにし、住民主体の見守りや支え合いの生活支援サービスが創出する地域を目指します

全世代に**予防（生涯健康でいること）**の啓発は必要である

フレイル（認知症も含む）予防のために**社会参加（居場所）**があるとよい

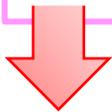
居場所に出かけると**見守りにつながる** 見守りにより**生活の困り事がみえる**

生活の困り事がわかると**住民主体の生活支援**が創出される

見守りができると病気（認知症も含む）のことも気にかけて**早期医療受診**につながる

生活支援が充足されると**介護不足が解決**できる

全世代に**権利擁護（自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために）**の啓発は必要



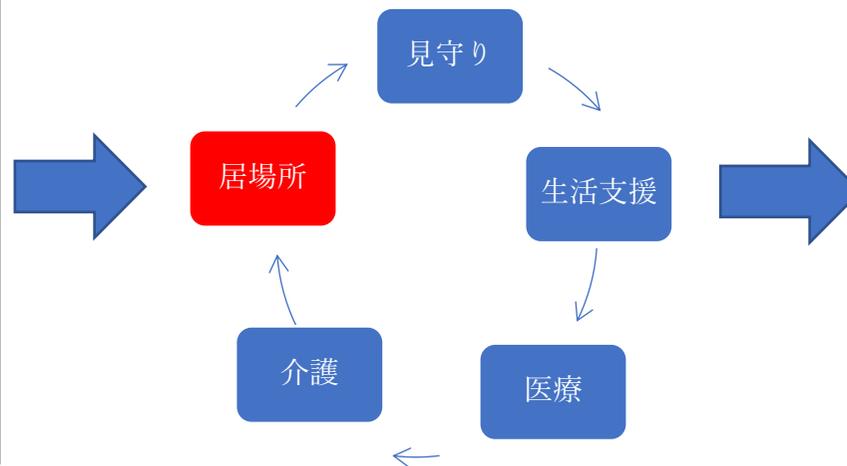
実現するために

- ①市民に**予防（生涯健康でいること）と権利擁護（自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために）**の重要性について同時進行的に啓発する
 - ・最後まで自分らしくいるために**予防**をしよう！ **予防の場所**として**通いの場やサロン**を活用しよう！ 自分ばかりではなく**近所の方も予防**しよう！
 - ・周囲には**高齢者独居世帯、高齢夫婦世帯、認知症、認認世帯、老障世帯、虐待、ひきこもりの世帯や安否不明の対応が多いことと災害時のために近隣者とつながりをもつことが老後困らないために必要！**
- ②**社会参加のための居場所（通いの場、サロンなど）**づくりを**全市に拡大**する
- ③**居場所（通いの場、サロンなど）**がある地域では**見守りや生活支援へと発展**できるよう働きかける
- ④**居場所（通いの場、サロンなど）**づくりが**難しい地域の見守り体制**を検討し構築する。

身近な方を気に掛ける人を育てよう 増やそう 市民とともに

【居場所（通いの場・サロンなど）がある地域 好循環スタイル】

- フレイル予防の啓発
（生涯健康でいるために）
- 権利擁護の啓発
（自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために）



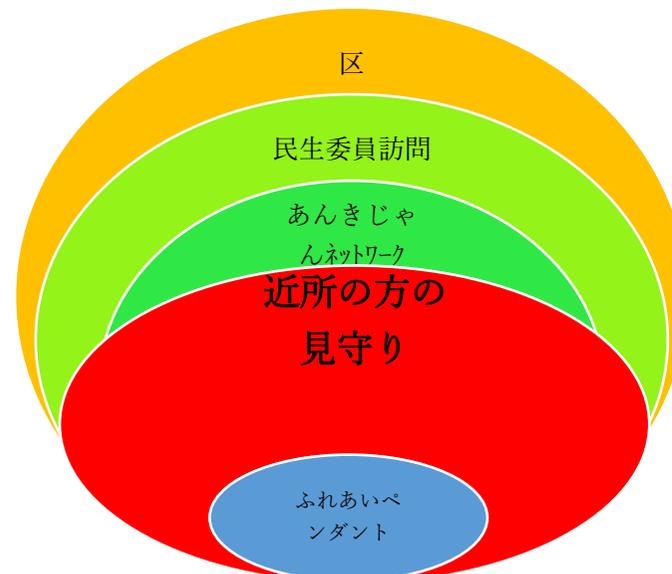
好循環することで

近所で見守りする人が増える。

見守りとちょっとした生活支援が入る。

高齢者本人及び家族の安心と

生活の安泰につながる。



【優先順位が高い高齢者を取り巻く地域課題(案)】

住民主体の地域の見守り体制を構築する必要がある

フレイル予防の啓発
(生涯健康でいるために)

権利擁護の啓発
(自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために)

【北杜市の見守りの定義（案）】

- ・ 高齢者等の生活の何気ない観察により安否の確認をすること。
- ・ 見守りされる側・見守りする側（近隣者）に負担のない声かけにより安心した生活が送れること。
- ・ 見守りする方が、異変があった場合の対応として、家族等に連絡がとれるようになること。
- ・ 住民や関係機関が協力して対象者を把握すること。

【高齢者の見守りの対象（案）】

9

- ・ 身寄りのない高齢者
(独居世帯、夫婦世帯、認認世帯など)
- ・ 障害のある子と高齢者世帯

※65 歳以上

【課題解決のためにできること（案）】

機関名	できること（案）
北杜警察署	見守り体制の構築 「駐在所だより」で地域とのつながりの必要性について啓発
峡北消防署	見守り体制の構築 独居や高齢夫婦世帯に対して緊急時連絡先がわかるようにしておくことを啓発
区長会	見守り体制の構築 区へ加入することを促すよう啓発 民生委員と連携して見守りが必要な対象者の把握 保健福祉推進員と連携してはつらつシルバーの開催
医療機関・薬局	見守り体制の構築 外来受診時等より緊急連絡先を2箇所以上把握する
民生委員児童委員協議会	見守り体制の構築 区と連携して地区内の見守りが必要な対象者の把握
北杜市社会福祉協議会	生活支援体制の構築 介護支援課包括支援担当と連携し生活支援体制整備事業の展開 地域サロンの開催地区の拡大 ボランティアの育成と住民参加型在宅福祉サービスの展開 権利擁護の啓発
介護保険事業所	見守り体制の構築 SOS ネットワーク事業所として登録

【課題解決のためにできること（案）】

10

機関名	できること（案）
介護支援課	居場所の充実 （介護予防担当） 介護予防サポートリーダー養成講座を開催し通いの場の拡大を図る
	生活支援の充実 （包括支援担当） 北杜市社会福祉協議会と連携し生活支援体制整備事業の展開、認知症地域支援推進員と協働 権利擁護の啓発
福祉課	見守り体制の構築 （福祉担当） 地域福祉の充実 「あんきじゃんネットワーク事業」の事業種と事業所数を拡大、「ふれあいペンダント」の周知 権利擁護の啓発
健康増進課	居場所の充実 （健康づくり担当） 保健福祉推進員へ「はつらつシルバーのつどい事業」の開催の啓発
消防防災課	災害時の対応の充実 （防災担当） 災害時のことを考えて区に加入することの必要性を啓発
総務課 市民サービス課 各総合支所地域市民課	見守り体制の構築 転入手続き時に区への加入の必要性を啓発 地区や区長の紹介
ふるさと納税課	見守り体制の構築 （シテイプロモーション担当） 移住定住の相談時において区への加入の必要性を啓発

【第1回（令和5年1月17日）地域ケア推進会議の結果】

【質問】

【回答】

<p>虐待の中でも経済的な虐待が多いとの説明だが原因はコロナ禍なのか、家族構成なのか、認知症なのか？</p>	<p>コロナ禍というわけではない。もともと滞納がある世帯が多いので介護保険が必要な状態になり利用料を支払えないことから発覚することが多い。親の年金で生活している介護者がいる。</p>
<p>成年後見制度を中核機関に委託しているが今後の見通しは？</p>	<p>成年後見制度を広く市民に周知するとともに市民後見人を養成することも検討している。（福祉課回答）</p>

●虐待等で後見制度の需要があるので後見制度の普及啓発が必要

地域課題⑤
権利擁護の啓発

【意見】

<p>配食サービスについて 食べることは大事なことである。法人として調理したものを届けている。調理することはできるが届けることが難しい。配達してくれる方がいればよいが。</p>
<p>配食サービスについて 民生委員としてお楽しみ給食を届けているが、毎日は難しい。食べることは基本。</p>
<p>外出支援について 大事なのは外出支援。法人が地域限定でドライブをしながら買い物支援のサービスを独自でしている。利用者は自分の目で見て買い物ができる喜びている。ボランティアで外出支援をしたいという方が明野にいる。</p>

●高齢者の食事は大切で安定して提供できる体制が必要
●高齢者の外出支援は大切で外出できる支援があるとよい

地域課題④
生活支援の創出

【高齢者を取り巻く地域課題の再整理】

地域課題 ① 地域の見守り体制の構築	独居、高齢者世帯、身寄りなし、障害のある子供と同居、生活困窮、虐待を受けている等の高齢者が多くなっている。また、近隣から孤立している。
地域課題 ② 認知症対策の推進	認知症独居高齢者の増加、徘徊後発見されない方がいる、免許証を返納せず交通事故を起こす方がいるなど認知症を見守る体制が十分ではない。
地域課題 ③ 医療・介護サービス不足の解消	高齢者の増加、介護保険要支援要介護認定者等が増加しているが医療・介護サービスが不足し、サービスを待機している方がいる。
地域課題 ④ 住民主体の生活支援の創出	ちょっとした生活の困り事に対応できる身近にある住民主体のサービスが増えていない。
地域課題 ⑤ 権利擁護の啓発	認知症の方、身寄りのない方、虐待の増加により成年後見制度が必要になっている高齢者が増加しているが市民に成年後見制度が浸透しない。

--	--

北杜市通いの場事業について

- ・平成18年度から事業開始
- ・市内では63団体が実施中（令和4年8月時点）

令和5年3月14日に行われた北杜市通いの場団体交流会の様子

- ・武川のせせらぎホールで20団体 33人の参加
- ・3年ぶりの開催。通いの場を実施して思うことやこれからの北杜市の地域づくりについてグループで話し合いをした。

【運営主体（介護予防サポートリーダー等）の声 一部のみ】

- ・自分のために活動を始めたけれど、地域の人との関わりが生まれ、地区の人間になれた気がする。
- ・老後の体力（フレイル）が不安になり通いの場の運営をスタート。この年で体力がつくことがわかった。仲間を増やしたい。
- ・参加者が6人で少ないが、自分達で何ができるか考え自分のできることをしている。自信にもつながっている。
- ・後継者がみつかってよかった。
- ・楽しみながらできている。
- ・一人暮らしや移住者がいる地区なので行政と一緒に頑張ってほしい。

◎一度参加した方がまた来てもらえるように自宅を訪問して参加の声かけをした。

【課題に感じること】

- ・今後も続けたいが後継者がいない。
- ・送迎が難しい。
- ・参加者を増やしたいがどうすればいいか困っている。

